

東日本大震災伝承活動

問 市内の高校生有志、夢団が大震災の記憶や教訓を風化させないための語り部活動で復興庁から表彰された。鶴住居復興スタジアムにおいても語り部活動を展開している。市の伝承活動支援事業と夢団の活動には連携があるのか。

答 いのちをつなぐ未来館において夢団が作成した震災カルタを活用したり語り部活動を行っている。

重層的支援体制整備

問 新年度より始動する重層的支援体制整備事業の大きな特徴は何か。

答 重層的支援体制整備事業は、子供、高齢者、生活困窮者、障がい者等の各分野において既存の福祉事業等の取組を新規事業である参加支援事業等と一体的な支援体制の枠組で展開することにより、いままでの制度の対象範囲を超えた支援を行うことが可能となるのが大きな特徴である。

介護施設等整備事業

問 介護保健施設から介護医療院へと転換される事業だが、違いは何か。利用者への経済的負担を含め影響はどうか。

答 保健施設は病状安定りハビリティを対象とし在宅復帰が目的。介護医療院は要介護者の医療と介護を一体的に提供したことにより、みとりまで対応できるようになる。また、3ヶ月ごとの入所可否のチェックは不要となるが利用料は若干高くなる。

衛生費

予防接種

問 公費負担対象となつている予防接種以外に、今後検討されている予防接種はあるか。

答 定期接種以外の任意接種の方で、議会でも何回も質問に出ている帯状疱疹ワクチンについては、県内でも接種事業が増えてきていることから、推移を見ながら検討したい。

母子保健

問 県立釜石病院で通常分娩が休止中だが、妊婦の健康診査など、県立釜石病院の対応状況は。

答 大船渡病院の産婦人科医が産休や育休などを取得した影響で、釜石で健診ができない状態にある。

問 安心して産み育てられる地域とするための市長の考えは。

答 医療局を訪問し、要望を実施した。釜石医療圏から医師を輩出できるような取組を同時に進める。

妊産婦支援

問 市と名のつくまちな小児科、産婦人科もないまちは少ない。安心して子供を育てる環境のないまちに若者が定着するわけがない。小規模でよいので小児・産婦人科に特化した病院を作るべきでは。

答 産婦人科等数人で組まないといけない。提言のとおり、小児科等の人材を育て釜石に帰ってくることを望ましく、中長期的に考えていく。

プラ分別・再商品化

問 普及啓発チラシの作成はどのようなものか。

答 令和7年度から実施するプラスチックゴミの分別方法として、どのようなゴミがプラスチックゴミとして分別しなければならぬのか。また、どのようにして集積所に出すのか等を掲載予定である。今後は、東海市等の取組を

参考に現在発行している資源ごみ分別辞典にプラスチックの分別も盛り込みたいと考えている。

農林水産業費

農業振興総合支援

問 甲子柿、サクラマス、すずこまトマトのブランド化に向けての当局の取組と展望は。

答 行政のみならず、生産者、事業者の皆様と共に全国に誇れる特産品を作り上げていきたい。携わる皆様仲間になって、目的と目標を共有し、連携を強固にして一丸になり全国に向けて、釜石ブランドを売出していくためにも、予算を確保し、産業経済の活性化を図っていききたい。